

県政ひざづめ談議

県民総参加の県政を目指して

県民の皆さんと知事が直接、県の現状や将来などについて普段着の対話を行う「県政ひざづめ談議」。年間に20回実施し、皆さんの生のご意見やご要望を県政に反映させ、「暮らしやすさ日本一」の山梨づくりをしています。5月16日に実施された県政ひざづめ談議では、和やかな雰囲気の中で意見が交わされました。



直売所を通じた 芦川地域の 活性化のために

平成23年度の初回は、笛吹市の芦川農産物直売所「おごっそう家」の運営に携わる15名の方々と、直売所を通じた「芦川地域の活性化」について意見交換を行いました。

昨年4月にオープンした同直売所では、芦川の特産品であるこんにゃくや地元で作られた農産物、加工品が販売され、多くの来客でにぎわっています。

直売所を視察して対話に臨んだ知事は、開口一番「刺身こんにゃくがうまいですね。軟らかくて」。これに、こんにゃくを

作った参加者が「通常は芋を粉にして作るが、生芋をすり下ろしているため軟らかい」と答えるなど、自慢の特産品の話題で、終始和やかな雰囲気の中、対話は進みました。

「もっとPRすれば客足はさらに伸びそう。そのための工夫をしていただければ、県からも応援させていただきます」と話す知事に対して、参加者からは、「観光客への案内標識が不足しているので整備してほしい」との要望が上がり、知事は「設置場所を示していただければ、設置していきたい」と答えました。

また、参加者から「作った地菜炒めやあんころ餅などの加工品がすぐに売れてしまうので、



作るのが楽しみだ」「心にゆとりと張り合いができた」などの声を聞き、知事は「皆さんが、生きがいを持って一生懸命直売所の仕事をされていて、本当に素晴らしい将来性のある施設だと感じた」と話し、対話は終了しました。



被災地での活動を踏まえ 県の防災体制を見直し

第2回は、東日本大震災の被災地に派遣された緊急消防援助隊の方々12名と、「被災地

における活動状況と県の防災体制の見直し」について意見交換を行いました。まず、隊員たちが1人ずつ、東

日本大震災発生翌日に現地入りした時に目の当たりにした、被災地の悲惨な状況や緊迫した救助活動の様子などを報告。その経験を踏まえ、耐震性の防火水槽の設置や衛星携帯電話の整備など、県の防災体制の見直しについて、さまざまな発言があり、知事との間で活発に意見が交わされました。

最後に知事は「被災地での経験を踏まえた貴重な意見を参考に、県と市などが一緒に進めたい」と締めくくりました。



県政ひざづめ談議参加者募集

あなたも「県政ひざづめ談議」に参加して、知事と直接対話を試みませんか？

- 対話テーマ 家庭や地域における防災対策について
- 開催日時 9月20日(火) 午後2時～午後3時30分ごろ
- 開催場所 富士吉田合同庁舎 2階大会議室
- 募集人数 15人程度
- 応募資格 ・県内に在住し、18歳以上であること。
※ただし、議員や公務員、行政委員会の委員などは除きます。
- 応募方法 次の書類を、郵送または電子メールで提出してください。
①応募申込書(県ホームページか各地域県民センターで入手できます。)
②作文(対話テーマに関する意見や提案など、400字程度)
- 募集期間 ～8月12日(金) ※必着
- 選考方法 提出された応募申込書および作文により選考します。
- その他 ・選考結果は、8月末日までに、郵送により応募者全員に通知します。
・参加に要する交通費などについては、県では一切負担しません。
・受け付けた応募申込書および作文は返却しません。

申し込み・問い合わせ先

知事政策局広聴広報課
〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 TEL 055-223-1336
Eメール:koucho@pref.yamanashi.lg.jp

県政ひざづめ 検索